

株式会社社会システム総合研究所と 官民連携事業に関する契約を締結

～位置情報・交通観測システムでラオスの交通渋滞の解消へ～

国際協力機構（JICA）は5月13日、株式会社社会システム総合研究所（兵庫県）と「ビエンチャン市都市交通改善のための位置情報・交通観測システム 普及・実証事業」に関する契約を締結しました。



GPS バスロケーションシステム(利用イメージ)



Wi-Fi パケットセンサーによる交通観測システム

ラオス国の首都ビエンチャンでは、自動車台数の急増に伴う交通渋滞の解消と市民の公共交通の利用促進が大きな課題となっています。加えて、正確なデータに基づく交通計画、都市計画の策定が政策上の課題になっています。

本事業では、ビエンチャン市において(株)社会システム総合研究所が開発した位置情報・交通観測システムをラオス国公共事業運輸省、ビエンチャン市と共同で導入し、取得したバスの位置情報やバス路線の交通流量データを収集・分析することにより、その技術の優位性や経済性を実証します。また、取得されたバス位置情報と渋滞情報はインターネットを通じて運行管理者のみならず一般道路利用者へも配信されます。同社のシステムは車載器に汎用のスマートフォンを活用すること等で、導入費用を低コストに抑えることが可能です。

本事業によりビエンチャン市におけるバス運行計画の効率化の実現や、取得したデータを活用した持続的な交通管制を行う仕組みの確立が期待されます。(株)社会システム総合研究所としては、本事業を通じてラオスのシステム管理技術者を育成し、東南アジアでの事業拡大を目指します。

この取り組みは、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、現地での適合性を高め、普及を図ることを目的とした「普及・実証事業」として実施されるものです。2014年9月に第4回目の公示を行い、本事業が採択となりました。